

令和7年度 学校関係者評価書（都城市立姫城中学校）

4段階評定 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する

項目	評価指標 及び 具体的目標	自己評価		自己評価結果の考察・分析及び改善策等	評価委員評価	学校関係者評価委員の意見
		評価	総合評価			
1 知 (確かな学力の育成)	(1) 「分かる、できる」を実感できる授業実践:① ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.7	3.3	【考察・分析】 ・ICT機器を授業の道具として使いこなす教員が定着し、生徒が能動的に思考する場面が増加した。 ・相互参観や副担任による道徳授業の実施が、多角的な生徒理解と指導力の向上に寄与している。 【改善策】 ・個々の習熟度に応じたきめ細かなフォローアップ体制を整えるとともに、学んだ内容を定着させるための「振り返り」の時間を授業内に確保する工夫を継続する。	3.4	○登校指導中、学習で分からないことは先生方に聞くよう話しかけている。ほとんどの生徒が「聞きに行く」と言っている。 ○以前と異なり学習指導の仕方が変わっているのが教職員の皆様は大変だなと思う。 ○『「分かる、できる」を実感できる授業実践』では生徒・保護者とも昨年度と数値的には変わりはないが、教員の実感としては、生徒の評価と同程度の評価となってきている。実感が成績という結果につながっているのが確認が必要。 ○ICTは、これからの世の中を生きる生徒たちにとって必須である。今後もさらにICT活用について取り組んでいただきたい。また、本当の学力向上に結びつくICT活用についても研究を深めてほしい。 ○『効果的にICTを活用した授業実践』では、指定校を受けていた昨年度と比較すると、若干下がってはいるが、ICTに頼ることができない学習もあるのではないかと。 ○『家庭学習の充実』では、教員の取組としては、昨年度よりも復習の促しや実施の指導が行われたが、生徒や保護者の実感としては昨年度よりも若干下がっている。改善策にもあるように具体的な対応が必要だと思う。 ○生徒は、放課後等も部活などで大変忙しいと思うが、授業の予習復習のための家庭学習は重要だと考える。各教科とのバランスを考えながら、短時間で充実する課題の出し方について検討し、次年度は具体的な取組を示していただきたい。 ○家庭学習について、保護者調査が2の評価で、家庭における学習環境があまり良くない実態なのではないか。 ○『キャリア教育の見直し』では8割を超える教員が「計画的実践を行った」と回答があるが、生徒や保護者の実感としては昨年度よりも若干下がっている。生徒が夢や将来の展望を具体的に思い描けるような取り組みが必要なのではないか。 ○職業講話は企業側とても楽しみにしている時間である。今後も継続して連携出来ればと思います。 ○まちなか広場で実施(6/20)予定のみやこんJOBフェスタについても、生徒の皆さんに参加して楽しんでいただきたい。
	(2) 効果的にICTを活用した授業実践:② ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.3		【考察・分析】 ・リーディングDX事業の継続により、生徒のデジタル活用スキルは着実に進歩している。 ・一方で、端末利用が目的化せず、真の学力向上に結びついているかを注視する必要がある。 【改善策】 ・ICTへの苦手意識を持つ職員への学内研修を継続し、全教職員が効果的にキレビナ等のツールを活用できる体制を推進する。 ・授業における、ICTの活用のウェイトについて検証していくことも必要である。		
	(3) 家庭学習の充実:③ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	2.7		【考察・分析】 ・自宅での学習習慣の定着には個人差が見られ、課題の提出率向上が依然として重要課題である。 ・各教科担任からの課題の出し方についても、教科間のバランスや量、内容等の検討が必要と思われる。 【改善策】 ・計画表の活用を徹底させるとともに、ICTを活用した視覚的に分かりやすい課題提示を行い、生徒が意欲的に取り組める家庭学習環境を構築する。		
	(4) キャリア教育の見直し:④ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.3		【考察・分析】 ・デジタルキャリアシート(おいろく)や外部講師との連携により、将来の展望を描く機会が充実した。 【改善策】 ・進路情報をより迅速かつ多角的に家庭へ提供し、親子で将来について語り合うきっかけ作りを強化する。		
2 徳 (心の教育の充実)	(1) 基本的な生活態度の確立:⑤⑥ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.7	3.4	【考察・分析】 ・生徒会や部活動による朝の活動が、校内の挨拶文化を活性化させている。 ・積極的にあいさつができる生徒がほとんどである。 【改善策】 ・良好なあいさつの状態を維持しつつ、生徒会を中心とした活動を充実させることで、主体的に自身を律する生徒の育成を図る。	3.3	○思いやりの項目について、それぞれの調査評価が生徒、保護者、教職員の三者とも「4」というのは素晴らしい。 ○あいさつは生徒からしてくれることもあるし、私からすることもある。ただ、ある地区の男子生徒が全くあいさつをしない。 ○『基本的な生活態度の確立』では生徒をとりまく保護者や教員も「あいさつや返事ができている」と回答。そのうち半数以上が4の評価であり、生活態度のすばらしさがうかがえる。ただし、学校での清掃と家庭での掃除やお手伝いでは、評価が分かれている。掃除や整理整頓の大切さを分かっただけで学校での清掃や家庭での掃除を行うことも必要なのではないか。 ○『いじめ防止対策・不登校生徒への対応』では、生徒の87%が「悩みや考えを話せた」と回答しているが、逆に13%の生徒は悩みや考えを話せなかったということになる。外部のSNSや電話相談なども連携を図り、声を出せる場所を設けることも大切なのではないか。 ○いじめを無くすというより、いじめから学ぶことこそ、集団生活ならではの学びの時だと思う。 ○「いじめはダメ!」ですが、どうしていじめってしまったのか、どうすれば良かったかを子どもたち自身が考える場が必要であると思う。 ○いじめられたり困ったことがあれば必ず先生に伝える様 生徒に言っている。時には私に言っても相談してもいいよと言うが、今のところ相談はない。 ○生徒の87%がアンケートや教育相談で「悩みを話せている」と評価していることは大変素晴らしい。このことで問題が小さくうちに解決されている事案も多くなるのだからと思う。この取組が効果を上げていると思う。一方で約10%(約30名)の生徒が悩みを話すことが難しい状態にあることを意識していただき、生徒の小さな変化をとらえていただければありがたい。人の心はなかなか見えないため難しいことではあるが…。先生方の日々の努力に感謝している。 ○生徒のイトコロをしっかりと「見える化」して評価することが大事である。 ○気になる言動の中にも、揺れる思春期の心模様が見られるので、子どもたちの「揺れ」を優しく受け止め導く、寛容な態度が大人には求められていると思う。 ○相手の立場を考慮する以上に、自分の気持ちも受け止めてもらう場も必要と考える。 ○本を読む時間がないというのがあると思うが、本に親しむようにするための何らかのしかけがあるのではないかと。図書館サポーターの方を含めて具体的な取組がなされるとよい。 ○『思いやりの心の育成』では、教員は「思いやりのある言動を意識させることができた」「感謝の気持ちを大切に指導に取組んだ」(100%)と回答されたが、6%の生徒は「思いやりのある言動を意識できなかった」約4%の生徒は「感謝の気持ちをもって生活できなかった」と回答。なんらかの悩みがあるのか、不安があるのか気になる。 ○図書館サポーター様により図書室の環境整備がされ、図書室の配置がよくなってきているとあり、一度、図書室を見学させていただきたいと思う。 ○『豊かな心を育む読書活動の推進』について、読書活動は低下が顕著。読書はイメージする力を育み、人の痛みや『思いやりの心の育成』など、他の項目にもつながるものではないか。 ○図書館サポーターの協力と助言がとても大切であると思う。 ○図書館が生徒にとって、ほっとできる場であることが大事だと思う。ぼーっとする、ちょっと交流を求め、そんな気軽な場所である時に、色んな本への触れ方も見られるようになるのではないかと。 ○スマホ利用等 ゲーム等を楽しみ生徒が増えて、読書に興味をもたなくなったと思う。
	(2) いじめ防止対策・不登校生徒への対応:⑦ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.7		【考察・分析】 ・定期的なアンケート(月1回実施)と教育相談により、初期段階での事案把握と対応を組織的に行うことができてきた。しかしながら、いじめや悩み等を教職員に相談することができない生徒もいるのではないかと考える。 【改善策】 ・些細な言動が相手に与える影響を考えさせる「SOSの出し方教育」を継続し、全職員で生徒の心の変化を機敏に察知する体制を維持する。		
	(3) 思いやりの心の育成:⑧⑨ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	4.0		【考察・分析】 ・相手の立場に立つて考えることの重要性や、より良いコミュニケーションのあり方について、朝の会や帰りの会、道徳・学級活動等で、生徒に伝えることができてきた。 ・生徒会による啓発活動が浸透し、互いを尊重する意識が高まっている。 【改善策】 相手の立場に立った言葉遣いやコミュニケーションのあり方について、道徳の時間を軸に全教育活動を通じて指導を深める。		
	(4) 豊かな心を育む読書活動の推進:⑩ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	2.3		【考察・分析】 ・図書館サポーターの方のご尽力により、図書室の環境整備が進み、利用しやすい空間が維持されているが、読書習慣の二極化が見られる。 【改善策】 ピブリオバトル等のイベントを通じ、本に触れる楽しさを再発見させる機会を設ける。		
3 体 (健康安全と体力の向上)	(1) 交通安全指導や安全点検の徹底:⑪ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	4.0	3.7	【考察・分析】 ・月1回の点検と修繕により安全な環境が保持されている。 ・生徒の交通安全に対する規範意識も高く、概ね交通ルールやマナーが守られている。生徒の交通ルールに関する指摘があった際は、現場の状況を確認するとともに、全校生徒及び当該生徒に対し、迅速な注意喚起を行うことができた。 【改善策】 ・登下校時の交通マナーについて、地域と連携した見守り活動を継続し、安全意識の定着を図る。	3.6	○交通安全に関する件について、朝の立番をしている民生委員・児童委員からの報告を受けて、生徒への指導をしていただきありがたかった。お忙しい中、現場に足を運んでいただき、感謝している。 ○『交通安全指導や安全点検の徹底』では大半の生徒が「校則や社会ルール、交通マナーを守れた」と回答。保護者の評価は少し低いが、概ね評価のとおりであると思う。先日18時頃、早鈴の信号のある交差点で、中学生くらの女子3人が自転車等連なって走行。信号機はあるものの道幅が狭く気づいていなかったのかもわからないが、赤信号を走行していった。姫中生かはわからないが、街中で見えにくい薄暮の時間帯は、それなりに交通量もあり事故も起こりやすい時間帯でもある。主要幹線も近い本校としては特に注意をお願いしたい。 ○『危機管理意識の高揚』については、ゲーム機等のルールについて、保護者と生徒では乖離している。タブレット学習が保護者の目には違うように映ったのかもしれないが、ルールを守る規範意識は社会においても重視される。また長時間の携帯端末使用は健康面でも問題がある。「時を守る」意味を生徒自ら考える機会なのかもしれない。 ○地震大国に数えられ近年、大きな災害も発生している日本において、災害への対応は、一つのカリキュラムにあげてよいほど重要な取組。家庭でも、発災した場合の避難場所くらいは話し合っておいてほしい。 ○生徒自身で校区の危険箇所を調査し、その成果を発表したり小学生に伝えるなどの取組が挙げられているが、是非継続して欲しいと思う。 ○薬物乱用は身近さを増している。定期的に啓発し保護者、教員を含めての活動が必要だと思う。
	(2) 危機管理意識の高揚:⑫⑬ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.3		【考察・分析】 ・危機管理マニュアルの改訂とフローチャートの整備により、緊急時の対応力が強化された。また、地震及び火災に関する避難訓練を実施し、生徒及び教職員の危機意識を高めることができた。 ・情報モラルや薬物乱用防止に関しては、定期的に、体育館にてプレゼンを用いながら、全校生徒に注意喚起を行うことができた。 【改善策】 ・ネット上のマナー(情報モラル)に関する課題に対し、ガイドラインの周知と継続的な指導を行い、トラブルの未然防止に努める。		
	(3) 体力向上や健康意識の育成:⑭⑮ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.7		【考察・分析】 ・体力向上プランに基づき、部活動や体育授業で計画的に取り組むことができた。 ・毎週水曜日をリフレッシュデーと位置づけ、部活動の休養日として確実な実施ができた。 【改善策】 感染症流行期における対策の再徹底や、食育を通じた健康な体づくりの意識向上を推進する。		
4 地 (家庭・地域との連携)	(1) 家庭と学校の連携の充実:⑯⑰ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.3	3.2	【考察・分析】 ・学校通信や学校ホームページを活用し、学校における生徒の活動について迅速な情報発信を行うことができた。 ・シグフィの効果的な活用により、参観日等の行事について、確実な周知を行うことができた。学校から発出する際のシグフィの利用については、内容を精選している。 【改善策】 ・配布物の確実な伝達を含め、学校の教育活動がより確実に家庭に伝わるよう工夫する。	3.3	○学校からの連絡だけを入れるプリント入れとか、袋等を全生徒に持たせたらどうか。 ○シグフィやホームページによって家庭への連絡が効果的になされていると考える。 ○『家庭と学校の連携の充実』では、いつの時代もプリントが100%届きました、とはならない。18%の生徒も自覚しているようだ。半面、シグフィはかなり定着してきている。プリント(紙)配布がすべて電子化されるのも、遠い話ではない。 ○『地域と学校の連携・協働の推進』では、生徒・教員の評価は昨年度よりも大幅に増え、保護者の評価とは乖離がみられる。91%の生徒が地域行事やボランティアに積極的に参加し、そのうち73%を超える生徒が4の評価というのは非常に素晴らしい。ぜひ、保護者にもそうした子ども達の姿を見て欲しいし、子ども達には家庭で話してほしい。学校においても、こうした子ども達を評価(讃えて)いただけることでモチベーションにもつながるのではないかと。 ○姫城地区ふれあい文化祭やみやこんじょうボランティアフェスティバル等で頑張っている生徒を見かける。 ○3校合同の事業である「門松作り」を通して、小学校の「オヤジの会」等を効率よく活用する工夫があったらいいと思う。 ○「姫ボラ」の地域への貢献は大きい。地域からの感謝の声を生徒に届ける機会があればと思う。 ○ボランティアをすることで地域の一員である自覚を深めると共に、自分が人の役に立っているということが意識できる素晴らしい活動で、それが自己肯定感の向上につながるのですます推進していただきたい。
	(2) 地域と学校の連携・協働の推進:⑱ ・生徒調査(指標3.0以上) ・保護者調査(指標3.0以上) ・教職員評価(指標3.0以上)	3.0		【考察・分析】 ・「姫ボラ」等のボランティア活動や地域人材の活用により、生徒が地域社会の一員である自覚を深めることができた。 ・公民館での餅つき大会や3校合同での門松作りを通して、学校と地域のより良い連携のあり方を再確認できた。 【改善策】 ・ホームページ等の更新頻度を高め、地域のニーズに応える活動を継続することで、地域に開かれた学校づくりを一層推進する。 ・現在、姫ボラの活動、職業講話、餅つき大会や門松作りなどの行事も充実しているため、今後も継続して連携を図りたいと考えている。		